

テープ起こしの基本

日本語の文章として、読みやすい、分かりやすい、読み間違いのない文章にします。

わからない、聞き取れないところが出てきたら	資料にない人名や固有名詞は、聞き取れる範囲で書きます。その時に（ ）の中に聞き取れた言葉をひらがな、またはカタカナで書きます。 録音状態や発音が悪く、言葉が聞き取れない場合のみ、「(聞き取り不明)」や「●(くろまる)」を入れてください。
全角と半角	文章の書き始めは、全角のスペースを入れる。 (◆などの記号を入れる指示がある場合は全角のスペースの後に入れる) 英語の略字 (NHK、DMATなど) は、全角。 英単語や英文章は、半角。 アラビア数字 (123...) は、1ケタの場合は全角、2ケタ以上は半角で書く。 例) 1980 (半角) 年 5 (全角) 月 25 (半角) 日
記号の使い方に注意	記号は、それぞれに意味があります。間違った使い方をしないようにしましょう。 句読点を複数並べない。「、、」、「。。」など。 疑問符 (?)、感嘆符 (!)、「ダブルクォーテーションマーク (””)」は使わない。

ケバ取りの目安

以下の表現や言葉を取り除きます。

それ自体意味のない表現	「あのう」、「そのう」、「ええと」、「まあ」など
無くて問題ない相づち	「ええ」、「はい」、「ああ」、「うん」、「ごもっとも」、「そうですね」など (インタビュー形式の文字起こしの場合)
同一の表現の連呼	語尾の「～よ」、「～ね」など。削除すると不自然になる場合は残す
無意味な口癖	「たとえば～、たとえば～、・・・」、「要するに～、要するに・・・」など頻繁に発言される場合

整文の例

明らかな言い直しは、直した方だけを起こします。**分からないときは、そのまま**起こします。

ら抜き言葉の訂正	「食べれる」→「食べられる」
話し言葉の修正	「けど」→「けれども」、「やるんです」→「やるのです」、 「いろんな」→「いろいろな」、「やっぱり、やっぱ」→「やはり」

ニュアンスや意味が変わってしまう場合は、文章の前後で判断します。

ひらがな書きする語

指示がない場合は、この一覧を基準とします。

読み誤りを防ぐため、かな書きをする語

漢字で書くと読み誤るおそれがある場合は、ひらがな書き、あるいは一部をひらがな書きにします。

大変 → たいへん	本当 → ほんとう	丁度 → ちょうど
一緒 → いっしょ	様々 → さまざま	色々 → いろいろ
是非 → ぜひ	子供 → 子ども	後 → あと
住居 → 住まい	出所 → 出どころ	正しく → まさしく
生物 → なま物		

補助用語

居る → いる (今外出して <u>いる</u>)	無い → ない (異常は認められ <u>ない</u>)	成る → なる (合計1万円に <u>なる</u>)	出来る → できる (見学することが <u>できる</u>)
過ぎない → <u>すぎない</u> (一部に <u>すぎない</u>)	行く → いく (元気に育つて <u>いく</u>)	置く → おく (至急知らせて <u>おく</u>)	来る → くる (暗くなって <u>くる</u>)
見る → みる (一応やって <u>みる</u>)	良い → よい (使用して <u>よい</u>)	下さい → ください (教えて <u>ください</u>)	頂く → いただく (事務所に来て <u>いただく</u>)
上げる → あげる (本を貸して <u>あげる</u>)	様だ → ようだ (実現は難しい <u>ようだ</u>)	知れない → しれない (本当かも <u>しれない</u>)	当たって → あたって (開会式に <u>あたって</u>)

形式名詞

事 → こと (…する <u>こと</u> がある)	時 → とき (万一事故があった <u>とき</u> は)	所 → ところ (今の <u>ところ</u> は必要ない)	物 → もの (正しい <u>もの</u> と考える)
訳 → わけ (…という <u>わけ</u> だ)	共 → とも (…すると <u>とも</u> に)	通り → とおり (次の <u>とおり</u> に書く)	他 → ほか (…する <u>ほか</u> はない)

代名詞	各々 → おのおの
連体詞	我が → わが 来る → きたる
副詞	飽くまで → あくまで 一体 → いったい 多分 → たぶん
接続詞	共に → ともに 矢張 → やはり 果たして → はたして 又 → また 但し → ただし 及び → および 並びに → ならびに 従って → したがって 所が → ところが
助詞	位 → くらい 程 → ほど
接頭語・接尾語	御～ → お～ 御～ → ご～ ～気 → ～げ ～達 → ～たち ～共 → ～ども